

# 選定方法「間違い」 みんな渡辺氏 矢板を視察

指定廃棄物の行方

みんなの党の渡辺喜美代表は22日、放射性物質を含む指定廃棄物



の最終処分場候補地として国が選定した矢板市内の国有林近辺を視察した。渡辺代表は「環境省の選定基準はでたらめだ」と話し、あらためて白紙撤回を求めていく考えを示した。

視察には同党の眞議や市議らも同行。地元住民の案内で候補地に近い山林に入り、候補地周辺の地形や沢の状況を確認し、住民らと意見交換した。

視察後、渡辺代表は処分場候補地から数百メートル南にある沢の水に触れる渡辺氏へ22日午前、矢板市塩田

「矢板市にはいろいろな湧き水があつて、地下水はいろんなところでつながっている可能性がある」と指摘。「地元の見解を聞かずに、勝手に決めて押しつけてくるやり方が間違っている」と、環境省による選定方法を強く非難した。(青木友里)

平成24年10月23日下野新聞

## 板場「隠蔽体質許せない」

板場  
分  
矢

渡辺代表、環境省を非難

放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場候補地として矢板市内の国有林が選定された問題で、みんなの党の渡辺喜美代表は22日、7月19日に環境省が県内市町の担当者向け

の説明会を行った段階で、すでに候補地が矢板市と塩谷町の2カ所に絞り込まれていたとあらためて指摘。説明会でその点を明らかにしないまま候補地を提示したとして、同省

を追及する構えをみせた。

同市で行った地元住民との意見交換会で述べた。同党の斎藤淳一郎県議も9月27日の県議会一般質問で、同趣旨の発言をしていた。渡辺代表によると、9月6日に同省に白紙撤回の申し入れを行った際、細野豪志環境相

(当時)との会談に同席した同省職員が「2カ所に絞り込んだのは7月上旬」と発言。党側が「7月19日の段階で、すでに2カ所に絞り込まれていたのか」と確認すると、否定しなかったという。その後、環境省側は、そうした発言はなかったとしているという。渡辺代表は「応答録(会談時の記録)にその部分が抹消されている。こういう隠蔽体質は絶対に許すことはできない」と非難した。

平成24年10月23日下野新聞



候補地に近い国有林などを視察する渡辺喜美・みんなの党代表（中央）ら—矢板市塩田地区で

### 渡辺代表らが 塩田地区視察

みんな

一方、みんなの党の渡辺喜美代表らが22日、最終処分場候補地区とされた矢板市塩田地区を視察した。同党県議や地元市議ら計8人も参加。近くの塩田ダムや寺山ダム、国有林

周辺などを約2時間かけて見て回った。その後の地元住民との意見交換では、地元住民から「先祖から受け継いだ山林、田畑を子や孫にきれいなままに残したい」「国会で作ってはいけない理由を説明してもらい、国民の総意として反対してほしい」などの訴え

があった。渡辺代表は「環境省の選定基準が相当いかげんなのが分かった。地域住民にとって大事な水の調査をほとんどしていないとの疑いが強まった」と話した。

渡辺代表はこの後、環境省に出かけていた遠藤忠市長を追って、都内で会談。渡辺代表はここでも「白紙撤回

させるしかない」と訴えた。遠藤市長は「長い戦いになる。茨城県高萩市とも協力して訴えていきたい」と述べた。

また、渡辺代表は、この日現地や遠藤市長との会談の中で、7月上旬に候補地を矢板市と塩谷町の2カ所に絞り込んだことを9月6日に大臣室で聞かされたことを明かした。遠

藤市長には「驚くべき話。2カ所に絞り込んでおいて、県内市町を集めた説明会では抽象的な話しかないのはふざけている。隠蔽体質は許せない。現地に行って工事がやりやすいうことがよく分かった。あまりにもずさんな選定方法だ」と口調を強めた。

【中津成美、長田舞子】

## 平成24年10月23日毎日新聞

### みんな県支部 候補地を視察

みんなの党県支部の視察団が22日、矢板市塩田に計画されている指定廃棄物最

終処分場の候補地を訪れ、地元の市民団体「矢板市民同盟会」のメンバーらと意見交換した。訪れたのは同党代表の渡辺喜美衆院議員と齋藤淳一郎氏ら4県議、さらに地元市議たち。

塩田公民館での意見交換会では、計画の白紙撤回を求める住民たちの意見にこたえ、渡辺代表は「でたらめな環境省のやり方を容認するわけにはいかない」と強調した。

### みんな渡辺代表ら 処分場候補地視察

みんなの党の渡辺喜美代表と同党県支部は22日、矢板市塩田の指定廃棄物最終処分場候補地を視察し、地元の「白紙撤回を求める矢板市民同盟会」と意見交換し、改めて候補地の白紙撤

回を環境省に求めていく考えを示した。現地調査には地元の齋藤淳一郎同党県議らと矢板市議らが同行した。サワガニなどが生息する候補地周辺の小川などを指摘しながら同代表は、「まさに水源ではないか」と述べた。